

市民アンケートやスポーツ関係団体へのヒアリング等で
明らかになった主な現状・課題等

1 身近な生活の中での運動・スポーツのニーズが高まる一方で、地域等において仲間と運動・スポーツをする機会が大幅に減少

- ・ 市民アンケート調査の結果から、コロナ禍では、これまで以上に「ウォーキング」、「日常生活に組み入れた運動」、「室内運動」など身近な生活の中での運動・スポーツのニーズが高く、また、生活の中で手軽にできる運動の情報が求められていることがわかった。
- ・ また、一人で運動・スポーツをする機会は増加したものの、友人や知り合い、地域や町内会など仲間と運動・スポーツをする機会が大きく減少していることがわかった。

⇒ 【現行計画・継続】

- ・ 気軽に体を動かすための場の設定

【追加施策】

- ・ ICTを活用したスポーツの推進
- ・ 体育振興会・スポーツ推進指導員の更なる活性化

2 新型コロナウイルス感染症対策の必要性

- ・ 市民アンケートやスポーツ関係団体への調査から、新型コロナウイルスの感染リスクを理由にスポーツ活動を控える状況、また、コロナ禍でのスポーツ活動実施に当たっては消毒液などの経費が増大するなど、団体の運営に苦慮する状況が見られた。

⇒ 【追加施策】

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策の推進

3 少子高齢化による指導者やボランティア等の担い手の不足

- ・ スポーツ団体へのヒアリング等から、少子高齢化により、競技人口の減少はもとより、指導者やボランティア等の担い手の確保が年々難しくなっている競技もあること、そしてまた、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がこうした状況に拍車をかける事態となっていることがわかった。

⇒ 【現行計画・継続】

- ・ 市民ボランティアのしくみづくり・裾野拡大
- ・ 体育振興会、スポーツ協会等との連携・協働

【追加施策】

- ・ 体育振興会・スポーツ推進指導員の更なる活性化

4 スポーツ団体同士のつながり・連携の必要性

- ・ スポーツ団体によっては、大学や民間企業、地域等と連携しながらまちづくりに資する取組等を進めているところもあるが、スポーツ団体同士の横のつながりが十分でないため、好事例となる取組が共有できていない状況があることがわかった。

⇒ 引き続き、ヒューマンウェア（スポーツリエゾン京都）の観点から、スポーツ関係団体や民間企業、大学等の情報共有や連携を促進する。